

福島第一原子力発電所の状況

2016年1月14日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (1/14 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	給水系：約2.6 m ³ /h	16.9	0.92 kPa g	A系： 0.03 vol %
		炉心スプレイ系：約1.9 m ³ /h			B系： 0.00 vol %
2号機	淡水 注入中	給水系：約1.9 m ³ /h	21.5	4.06 kPa g	A系： 0.03 vol %
		炉心スプレイ系：約2.4 m ³ /h			B系： 0.02 vol %
3号機	淡水 注入中	給水系：約2.0 m ³ /h	19.9	0.25 kPa g	A系： 0.03 vol %
		炉心スプレイ系：約2.3 m ³ /h			B系： 0.04 vol %

< 2. 使用済燃料プール(SFP)の状況 > (1/14 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	SFP 水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	12.4
2号機	循環冷却システム	運転中	29.2
3号機	循環冷却システム	停止中	19.8
4号機	循環冷却システム	運転中	8.3

各号機 SFP および原子炉ウエルヘビドランジンの注入を適宜実施。

[3号機]・電源切替盤点検を行うため、SFP代替冷却系を 1/13 5:34 に停止。冷却停止時のSFP水温度は 19.4。停止時のSFP水の温度上昇率は 0.098 /h、停止中のSFP水温度上昇は最大で約 1.2 と評価しており、運転上の制限値 65 に対して余裕があることから、SFP水温度の管理上は問題ない。同作業が終了したことから、1/13 17:35 にSFP代替冷却系を起動。同日 17:45 運転状態に異常なしを確認。起動時のSFP水温度は 19.6 (停止時 19.4)、運転上の制限値(65)に対して余裕があり、SFP水温度の管理上問題ない。

・電源切替盤点検を行うため、SFP代替冷却系を 1/14 5:38 に停止。冷却停止時のSFP水温度は 19.8。

< 3. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (1/14 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種 除去設備 (ALPS)	増設多核種 除去設備	高性能多 核種 除去設備
運転 状況	停止中*1	運転中*1	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	ホット 試験中*2	ホット 試験中*2	ホット 試験中*2

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。 *2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

< 4. その他 >

・2014/6/2～ 陸側遮水壁工事を開始。

2015/4/30 12:00～ ブライン(不凍液)循環設備の健全性や地下水の流れによる影響等の確認のため1～4号機建屋の山側(18箇所)を対象に試験凍結を開始。

・2015/5/27～ 構内で今後使用しないフランジボルト締めタイプのRO濃縮水貯槽の解体作業を開始。

・2016/1/13 12:39 敷地境界付近のモニタリングポストNo.7近傍(敷地南側)に設置しているダストモニタにおいて、ダスト放射能濃度の上昇を示す「高警報(警報設定値: 1.0×10^{-5} Bq/cm³)」が発生。

14:06 当該モニタの「高警報」が復帰し、警報発生前の値に戻ったことを確認。当該モニタリングポスト以外の発電所構内のダストモニタおよびモニタリングポストの指示値に有意な変動はない。

12:40 時点の風向および風速は、風向:南南東、風速:4.3m/s。なお、風向は 11:20 から南南東であり、発電所方向に向かって吹いていたものであることを確認。当該モニタの「高警報」が発生した際に使用していた紙を回収して分析した結果、セシウム 134 及び 137(天然核種以外の核種)が検出されたが、それ以外の核種は検出限界値未満だった。

< 回収した紙の分析結果(速報値) >

セシウム 134: 2.0×10^{-6} Bq/cm³ セシウム 137: 8.9×10^{-6} Bq/cm³

当該ダストモニタの「高警報」が発生した原因について、自然条件や構内外の作業状況を確認した結果、今回のダストの上昇は、以下のことから発電所構内の作業に伴うダストの放出ではなく、発電所南側に位置する道路をダンプが通過したことにより路面の砂塵が舞い上がり、MP7 近傍のダストが局所的に上昇し、それをダストモニタが検出した可能性が高いと考えている。

1号機原子炉建屋カバー解体工事においては工事エリアに設置したダストモニタに有意な上昇がなかった。

2号機、3号機がれき撤去関連の作業においても作業に伴うダストの上昇はなかった。フランジタンク解体作業についても当該時間にダストの舞い上がる作業はしておらず、かつ作業中にダストの上昇がなかった。

構内に設置した 10 か所の連続ダストモニタの指示値にも有意な変動はなかった。

MP7 を含む 8 か所の MP 指示値及び当該ダストモニタ以外の敷地境界のダストモニタ指示値に有意な変動はなかった。

MP7 近傍のダストモニタの指示値が上昇する約 1 時間前から南東又は南南東の風約 5 m が吹いている状態であり、発電所敷地外から発電所に向かって風が吹いていた。

MP7 近傍をダンプが上昇した時刻頃にダンプが 3 台通過していた。

なお、敷地南側の道路および通過したダンプの調査や構内で他にダストを舞い上げる作業がなかったかについて、引き続き調査を行う。

[1号機原子炉建屋カバー解体作業]

1号機原子炉建屋カバー(以下、建屋カバー)解体作業を開始。

・2015/5/15 6:45 ~ 5/20 13:11 建屋カバー屋根パネルからの飛散防止剤の散布作業を実施。当該作業期間中において、ダストモニタおよびモニタリングポストの値に有意な変動なし。

7/17 7:06 ~ 7/21 9:10 建屋カバー屋根パネル貫通孔からの飛散防止剤の散布作業が終了。

7/28 建屋カバー屋根パネルの取り外し作業を開始。10/5 に全ての屋根パネルの取り外しが完了。

・2016/1/8 ~ 支障鉄骨の解体作業を開始。

[サブドレン他水処理施設の状況]

・2015/9/3 サブドレン他水処理施設運用開始。

9/17 ~ サブドレン他水処理施設による地下水のくみ上げについて、昼間のみの間欠運転から 24 時間連続運転に切り替え実施。

・一時貯水タンク E の当社および第三者機関による分析結果[採取日 2016/1/3]は、同等の値であり、共に運用目標値を満足していることを確認したことから、1/14 10:06 ~ 15:49 に海洋への排水を実施。排水量は 818m³。

[地下水バイパスの状況]

・地下水バイパス揚水井 No.1 ~ 12 のサンプリングを継続実施中。

・一時貯留タンクグループ 3 の当社および第三者機関による分析の結果、共に運用値を満足していたことから、1/13 に港湾内への排水を実施予定。

その後、当該設備に係る点検作業を優先して行うこととしたため、排水を 1/15 に延期する。

[1 ~ 3号機放水路の状況]

1 ~ 3号機放水路については、1号機放水路上流側立坑および2号機放水路立坑において、セシウム 137 の濃度が上昇したことから定期的に水質調査を実施。

< 最新のサンプリング実績 >

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

[構内側溝に敷設されている耐圧ホースからの漏えいについて]

< K排水路排水口のサンプリング実績 >

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【H4, H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連】

< H4・H6エリア周辺、福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績 >

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【タービン建屋東側の地下水調査/対策工事の実施状況】

< 地下水観測孔・海水サンプリング実績 >

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

< 地下貯水槽サンプリング実績 >

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以上